

植生図 **GIS** データ

製品仕様書

第 **2.0** 版

平成 25 年 4 月

環境省自然環境局

生物多様性センター

更新履歴

版	更新日	内容	備考
Ver.1.0		第1版作成	
Ver.1.1	2005/6/28	<ul style="list-style-type: none"> ・シェープファイルの小数点以下座標桁数を 9 から 8 桁に変更 ・地物要件定義の項に環境省 RDB 種を含む植生図の扱いについての注を記載 ・「5. 出力図の仕様」 記載を変更 ・「7.1. 環境省 RDB 種を含む植生図の扱い」を追加 ・「7.2. 参考とする資料」に植生図 GIS 化ガイドラインを追加 ・植生原図→植生図に文言を統一 	
Ver.1.2	2006/5/22	<ul style="list-style-type: none"> ・成果品に日本測地系データ（シェープ/DLG とも）を追加 ・別紙「DLG 及び CSV フォーマット説明書」を追加 ・「2.2. 地物要件定義」 「図郭別通し番号」の記載を変更 ・「2.4. 品質要件及び確認方法」の記載を変更 ・「3. 品質確認報告書」 項目を削除 以降番号変更 ・「3. 符号化」「DLG 及び CSV フォーマット説明書」に関する記載を追加 ・「4. 出力図の仕様」 出力図のレイアウトの作成情報の記載項目を変更 ・「6.2. 参考とする資料」に「DLG 及び CSV フォーマット説明書」と「植生図出力図デザインについてのガイドライン」を追加 	
Ver.1.3	2006/11/1	<ul style="list-style-type: none"> ・「2.4. 品質要件及び確認方法」 検査フロー図を変更、凡例検査用プログラムの記載を追加、「植生図 GIS 化ガイドライン」を「植生図 GIS データ作成ガイドライン」に名称変更 ・「4. 出力図の仕様」 詳細を「植生図出力図作成ガイドライン」で記載するように変更 ・「6.1. 環境省 RDB 種を含む植生図の扱い」 論理検査の適用に関する記載を変更 ・「6.2. 参考とする資料」に「凡例検査用プログラム説明書」、「RDB 凡例置換プログラム説明書」を追加 	

版	更新日	内容	備考
Ver.1.4	2007/6/5	<ul style="list-style-type: none"> ・「1.2 データの地理的範囲」 データ作成範囲として「旧図郭2次メッシュ図郭の範囲」を追加 ・「2.2 地物要件定義」 「植生界線」、「植生範囲」、「凡例番号表示原点」のその他の部分に旧図郭2次メッシュ図郭線に関連する定義の部分の記載を追加 ・「3.2 ファイル名」の注釈を追加 	
Ver.1.5	2008/6/10	<ul style="list-style-type: none"> ・「5. 成果品」 環境省 RDB 種に関する記載を変更 ・「6.1 環境省 RDB 種を含む植生図の扱い」 環境省 RDB 種に関する記載を変更 ・「6.2 参考とする資料」 「RDB 凡例置換プログラム」の記載を変更 ・「2.2 地物要件定義」 環境省 RDB 種に関する記載を変更 	
Ver.1.6	2009/4/10	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省”RDB”を”RL”に変更。 ・関連する文書等の版を変更 ・日付を変更 	
Ver2.0	2010/3/30	<ul style="list-style-type: none"> ・JPGIS に沿った記述に変更 ・符号化規則をシェープファイルフォーマットのみに変更（DLG-3 ファイルは削除） ・ライン（アーク）のデータは削除 ・「旧2次メッシュ図郭」の定義を規定 ・日本測地系 2000 のデータのみに変更（日本測地系のデータは削除） 	
	2013/3/29	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を変更 ・「1.4 引用規格」JPGIS の版と日付を変更 ・「1.5 用語と定義」JPGIS の版と日付を変更、植生調査 情報提供ホームページの URL を変更 ・「7.2 配布媒体情報」の媒体名を追加変更 	

目次

1 概覧.....	1
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 適用範囲.....	1
1.4 引用規格.....	2
1.5 用語と定義.....	2
1.6 略語.....	3
2 適用範囲.....	4
2.1 適用範囲識別.....	4
2.2 階層レベル.....	4
3 データ製品識別.....	5
3.1 製品仕様識別.....	5
4 データ内容および構造.....	6
4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書.....	6
4.1.1 植生図 GIS データ応用スキーマパッケージ.....	6
4.1.2 植生図 GIS データパッケージ.....	7
4.2 空間スキーマプロファイル.....	15
4.3 時間スキーマプロファイル.....	15
5 参照系.....	15
5.1 座標参照系.....	15
5.2 時間参照系.....	15
6 データ品質.....	16
6.1 品質要求及び評価手順.....	16
7 データ製品配布.....	20
7.1 配布書式情報.....	20
7.2 配布媒体情報.....	21
8 メタデータ.....	22

1 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：植生図 GIS データ製品仕様書 第 2.0 版
- 日付：2013 年 3 月 29 日
- 作成者：環境省 自然環境局 生物多様性センター
- 言語：日本語
- 分野：環境
- 文書書式：PDF

1.2 目的

本仕様書は、環境省が構築する「2 万 5 千分の 1 植生図データ」の構成とその内容を記述し、自然環境保全事業や建設関連事業、国土情報管理等における基礎データとして、また、生物多様性情報システム (J-IBIS) によるインターネットを利用した一般公開 (データ提供) により、広く一般に有効活用されることを目的とする。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲
全国
- 時間範囲
特に定めない。

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格を引用する。

- 日本版メタデータプロファイル (JMP) 第 2.0 版
- 自然環境保全基礎調査植生調査実施要領
- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版 平成 21 年 5 月

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版
- 国土計画局 GIS 関連サイト 用語集
- 植生調査 情報提供ホームページ

<http://www.vegetation.jp/>

- 2次メッシュ

「標準地域メッシュ・システム (昭 48.7.12 行政管理庁告示第 143 号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード)」に基づくもので、一定の経線、緯線で地域を網の目状に区画したもの。

第 1 次地域区画は、経度差 1 度、緯度差 40 分で区画された範囲を指す。第 2 次地域区画は第 1 次地域区画を縦横 8 等分したもので、第 3 次地域区画は第 2 次地域区画を縦横 10 等分したものである。

- 旧 2 次メッシュ図郭

日本測地系で作成した 2 次メッシュの図郭を、TKY2JGD によって日本測地系 2000 に変換した図郭。但し、本仕様書では、図郭の四隅の値を直線で結んだ図郭を指す。

- 旧 2 次メッシュコード

日本測地系で作成した 2 次メッシュの図郭を、TKY2JGD によって日本測地系 2000 に変換した図郭の、変換前の 2 次メッシュコード。

- 植生図

ある地域を覆っている植物体の総称を植生といい、それらの面的な配分状況を地図上に表現した図を「植生図」という。本仕様書で示す「植生図」は、自然環境保全基礎調査植生調査において整備された「現存植生図」を指す。

1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards
- JMP Japan Metadata Profile
- UML Unified Modeling Language

2 適用範囲

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

植生図 GIS データ製品仕様書第 2.0 版適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3 データ製品識別

3.1 製品仕様識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

■ 空間データ製品の名称

植生図 GIS データ

■ 日付

2013年3月29日

■ 問合せ先

環境省 自然環境局 生物多様性センター
電話:0555-72-6031 Fax:0555-72-6035
Email : webmaster@biodic.go.jp

■ 地理記述

全国

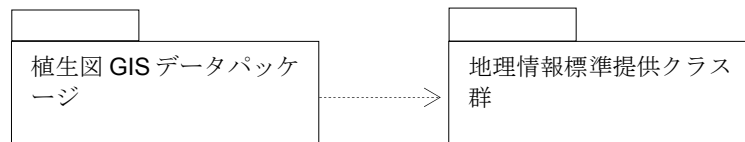
4 データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う自然環境情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 植生図 GIS データ応用スキーマパッケージ

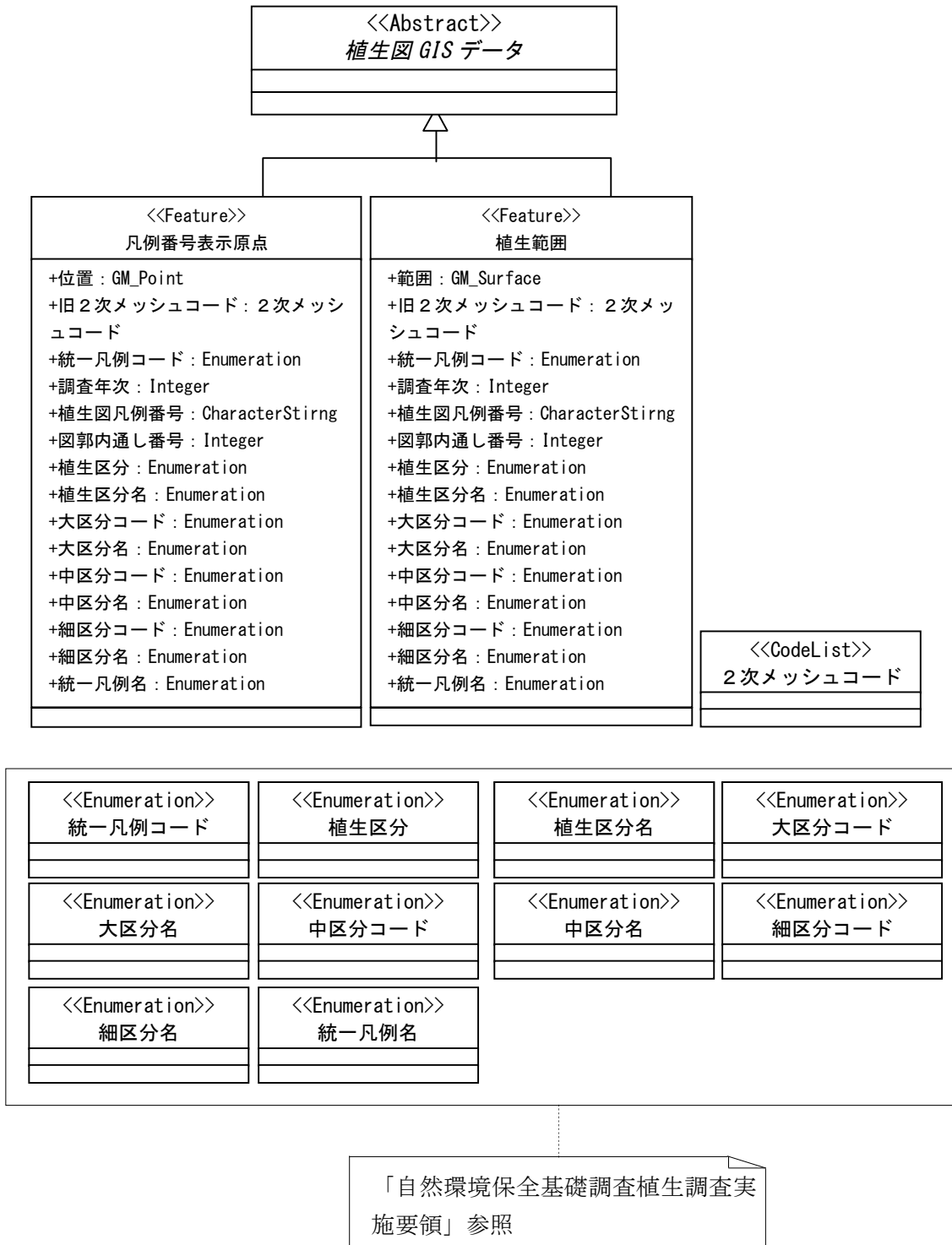
このパッケージは、植生図 GIS データのパッケージ構成をまとめたものである。植生図 GIS データ応用スキーマで使用する JPGIS の型に関するパッケージと植生図 GIS データ応用スキーマパッケージの依存関係を示す。



4.1.2 植生図 GIS データパッケージ

このパッケージは、植生図 GIS データに関する内容をまとめたものである。

4.1.2.1 応用スキーマクラス図



4.1.2.2 応用スキーマ文書

植生図 GIS データ

植生の位置または範囲。

抽象／具象区分： 抽象地物

植生範囲

植生の範囲。

上位クラス： 植生図 GIS データ

抽象／具象区分： 具象地物

属性

範囲： GM_Surface

地図情報レベル 25000 程度の情報を持つ植生界線で囲まれる範囲。

■取得基準

範囲を構成する座標位置は、植生界線と同一とする。

図郭線及び旧 2 次メッシュ図郭線で囲まれた範囲内で、空白部または重複部はない。

地形図図郭線と旧図郭 2 次メッシュ図郭線とのずれによる空白部分は空白とせず、「情報無し」という属性を持ったデータとして作成すること。

■定義域

原典資料に示される空間範囲。

旧 2 次メッシュコード： 2 次メッシュコード

データの存在する 2 次メッシュコード。

■定義域

2 次メッシュコード。同一ファイル内で、単一の値をとる。

統一凡例コード： Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コード

の値。
地形図が無い範囲の場合のみ"9999"とする。

調査年次 : Integer

植生図を作成するための調査を行った年度（西暦）。

■ 定義域

西暦。整数 4 桁。

植生図凡例番号[0..1] : CharacterString

植生図を出力する際に表示される番号。

■ 定義域

半角英数字。1～3 桁。

植生図作成時に各ブロック単位で採用される番号。土地利用の凡例については全国統一のコードとしてアルファベットで設定されているものを使用する。なお一部の凡例にあるハイフンなどは除く。(例)茶畑の e-1 は e1 とする。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

図郭内通し番号[0] : Integer

ファイル内の凡例ごとの通し番号。

■ 定義域

null

植生区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分のコード。

■ 定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分のコードの値。

但し、植生区分のローマ数字は算用数字に置き換える。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

植生区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分に対応する植生区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

大区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分のコードの値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

大区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分に対応する大区分名。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

中区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分のコードの値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

中区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分に対応する中区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

細区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分のコードの値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

細区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分に対応する細区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

統一凡例名 : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コードに対応する統一凡例名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例名の値。
但し、ローマ数字は全角英字（Ⅰ，Ⅴ，Ⅹ）に置き換える。

例) Ⅰ→Ⅰ Ⅱ→ⅠⅠ Ⅲ→ⅠⅠⅠ Ⅳ→ⅠⅤ X→X

地形図が無い範囲については「情報無し」とする。

凡例番号表示原点

植生図の凡例番号を表示するための文字の原点（中心）位置。

上位クラス： 植生図 GIS データ

抽象／具象区分： 具象地物

属性

地点 : GM_Point

植生図の凡例番号を表示するための文字の原点（中心）位置。

■取得基準

以下の条件範囲に配置する。

- ・ 植生範囲内
- ・ 隣接する植生範囲のための凡例番号と重なり合わない位置

- ・ 図郭線内に凡例番号が含まれる位置
- ・ 植生界線が混み合っていない位置

旧 2 次メッシュコード : 2 次メッシュコード

データの存在する 2 次メッシュコード。

■ 定義域

2 次メッシュコード。同一ファイル内で、単一の値をとる。

統一凡例コード : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コード。

■ 定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コードの値。

地形図が無い範囲の場合のみ"9999"とする。

調査年次 : Integer

植生図を作成するための調査を行った年度（西暦）。

■ 定義域

西暦。整数 4 桁。

植生図凡例番号[0..1] : CharacterString

植生図を出力する際に表示される番号。

■ 定義域

半角英数字。1～3 桁。

植生図作成時に各ブロック単位で採用される番号。土地利用の凡例については全国統一のコードとしてアルファベットで設定されているものを使用する。なお一部の凡例にあるハイフンなどは除く。(例)茶畑の e-1 は e1 とする。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

図郭内通し番号[0] : Integer

ファイル内の凡例ごとの通し番号。

■ 定義域

null

植生区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分のコードの値。

但し、植生区分のローマ数字は算用数字に置き換える。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

植生区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分に対応する植生区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、植生区分名の値。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

大区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分のコードの値。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

大区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分に対応する大区分名。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、大区分名の値。

地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

中区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分のコード

の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

中区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分に対応する中区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、中区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

細区分[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分のコード。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分のコードの値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

細区分名[0..1] : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分に対応する細区分名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、細区分名の値。
地形図が無い範囲の場合のみ NULL とする。

統一凡例名 : Enumeration

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例コードに対応する統一凡例名。

■定義域

「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領」で定める、統一凡例名の値。
但し、ローマ数字は全角英字（Ⅰ，Ⅴ，Ⅹ）に置き換える。

例) Ⅰ→Ⅰ Ⅱ→ⅠⅠ Ⅲ→ⅠⅠⅠ Ⅳ→ⅠⅤ X→X
地形図が無い範囲については「情報無し」とする。

4.2 空間スキーマプロファイル

植生図 GIS データの空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

植生図 GIS データの空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版 時間スキーマ」を採用する。

5 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2000/(B,L)

5.2 時間参照系

参照系識別子 : GC/JST

6 データ品質

6.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、取得規準に合わないデータが存在すれば、それを過剰なデータとカウントする。
データ品質評価手法	原典資料、判読図、オルソ等との比較による全数検査
適合品質水準	過剰データ数 0 個

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	凡例番号表示原点
データ品質評価尺度	1つの植生範囲内に複数存在すれば、それを過剰なデータとカウントする。
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	過剰データ数 0 個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、取得規準内のデータが存在しない場合、それをデータの漏れとカウントする。
データ品質評価手法	原典資料、判読図、オルソ等との比較による全数検査
適合品質水準	データの漏れの数 0 個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	凡例番号表示原点
データ品質評価尺度	1つの植生範囲内に、一つも存在しない場合、それをデータの漏れとカウントする。
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	データの漏れの数 0 個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式が、定義する形式となっていない箇所の割合を計算する。
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	符号化仕様が規定する仕様に対する、データ集合に存在する矛盾の割合を計算する。
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	属性の値が、定義域の範囲外にある値を持つ地物の割合を計算する。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	隣接するメッシュのデータと不接合があればエラーとしてカウントする。 但し、図面作成年次の違いにより、植生に実質的な変化が生じ植生図に不接合が生じている場合および未整備の場合は除く。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	植生区域
データ品質評価尺度	面どうしの重なり、図郭内の隙間、閉じられていない面、面積が 0.01 m ² 以下の面、点間距離が実寸 1cm 以下の線分を含む線から構成される面、内側に一つの凡例番号表示原点を持たない面があればエラーとしてカウントする。 但し、ファイル間接合部において面積が 0.01 m ² 以下になる場合は除く。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	植生区域
データ品質評価尺度	1点で他の面に接している面があればエラーとしてカウントする。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	植生区域
データ品質評価尺度	スパイク、キックバック等形状が正しくない線から作成されている面があればエラーとしてカウントする。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	凡例番号表示原点
データ品質評価尺度	植生範囲のほぼ中心位置に無い場合、エラーとしてカウントする。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と数値地図 25000（地図画像）および基盤地図情報（縮尺レベル 25000）を重ね、位置のズレの最大値を測定する。 但し、海岸線等形状が細かい位置については、構成している点を減らした形状と比較することとする。
データ品質評価手法	全数検査
適合品質水準	図上 0.3mm（実寸 7.5m）以内

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物が旧 2 次メッシュ図郭内に含まれていない場合、エラーとカウントする。 但し、既存のデータに接合させるために図郭外に点が存在する場合は除く。
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	エラーデータ数 0 個

データ品質要素・副要素	主題正確度・分類の正しさ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物属性の統一凡例コード、植生区分、植生区分名、大区分コード、大区分名、中区分コード、中区分名、細区分コード、細区分名、統一凡例名が、原典資料および判読資料等と比較し、原典資料等と内容が一致しない地物の割合を算出する。 誤率 (%) = (内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物属性の統一凡例コード、植生区分、植生区分名、大区分コード、大区分名、中区分コード、中区分名、細区分コード、細区分名、統一凡例名が、定義域と一致しない地物の割合を算出する。 誤率 (%) = (内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査
適合品質水準	誤率 0%

7 データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

仕様書名	シェープファイルの技術情報 ESRI ホワイトペーパー・シリーズ 1998年7月
発行者	ESRI 社 http://www.esri.com/gis_data/shape/shape.html#format

■ 符合化仕様

仕様書名	シェープファイルの技術情報 ESRI ホワイトペーパー・シリーズ 1998年7月
発行者	ESRI 社 http://www.esri.com/gis_data/shape/shape.html#format

■ 文字集合

Shift-JIS

■ 言語

日本語

■ ファイル名

フィーチャ名	ファイル名	例
植生範囲	"p"+[旧2次メッシュコード]+[拡張子]	p123456.shp
凡例番号表示原点	"t"+[旧2次メッシュコード]+[拡張子]	t123456.shp

※シェープファイルは、".shp".shx".dbf"の3ファイルで1つのフィーチャを構成する。

※すでに同一のファイル名が存在する場合は、8桁目に英字を"a"から順に付与する。

例) p123456a.shp

■ フィールド名

シェープファイルにおける属性のフィールド名は以下の通りとする。

主題属性	フィールド名
旧 2 次メッシュコード	MESH2_C
統一凡例コード	HANREI_C
調査年次	SURV_YEAR
植生図凡例番号	ORG_NO
図郭内通し番号	ZUKAKU_NO
植生区分	SHOKU_C
植生区分名	SHOKU_N
大区分	DAI_C
大区分名	DAI_N
中区分	CHU_C
中区分名	CHU_N
細区分	SAI_C
細区分名	SAI_N
統一凡例名	HANREI_N

7.2 配布媒体情報

■ 単位

旧 2 次メッシュ図郭

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、自然環境情報を無償で一般公開している。

自然環境情報 GIS ダウンロードのページ

URL <http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html>

植生調査 情報提供ホームページ

URL <http://www.vegetation.jp/>

8 メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、**JMP2.0**を採用する。